

新生児期以降の臍帯組織を用いた先天性サイトメガロウイルス感染診断について

(AMED「母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究」班)

研究分担者 伊藤 嘉規
岡 明

会員各位

本研究班では、先天性サイトメガロウイルス感染症の適切な診断を行うために、新生児（生後 3 週以内）の尿を用いた診断開発を行い、本症の診断体制の確立に努めて参りました。しかし生後 3 週を越えてしまうと、生後の感染でも尿中のウイルスが陽性となることから、この時期に先天性サイトメガロウイルス感染症が疑われる場合の診断については課題となっております。

本研究班では、先天性サイトメガロウイルス感染が疑われているがすでに生後 3 週を越えていて診断に困っている患者さんに対して、保存臍帯を用いた診断サービスを開始いたしました。

検査の対象となる患者さんは、神経学的または発達の異常（聴力障害を含む）があり、頭部 MRI 異常を認める患者さんとなります。

詳細は下記東京大学小児科 HP 内「先天性感染症 臍帯組織による先天性 CMV サービス」を参照ください。

<http://square.umin.ac.jp/ped/clinical-research/disease.html>

連絡担当者

名古屋大学・小児科学 伊藤嘉規

Tel: 052-744-2294

E-mail: yoshi-i@med.nagoya-u.ac.jp

引き続き先天性サイトメガロウイルス感染症の診療にご協力をお願いいたします。

先天性CMV感染症臍帯診断中央診断

要件: 以下の(A), (B)を満たすこと

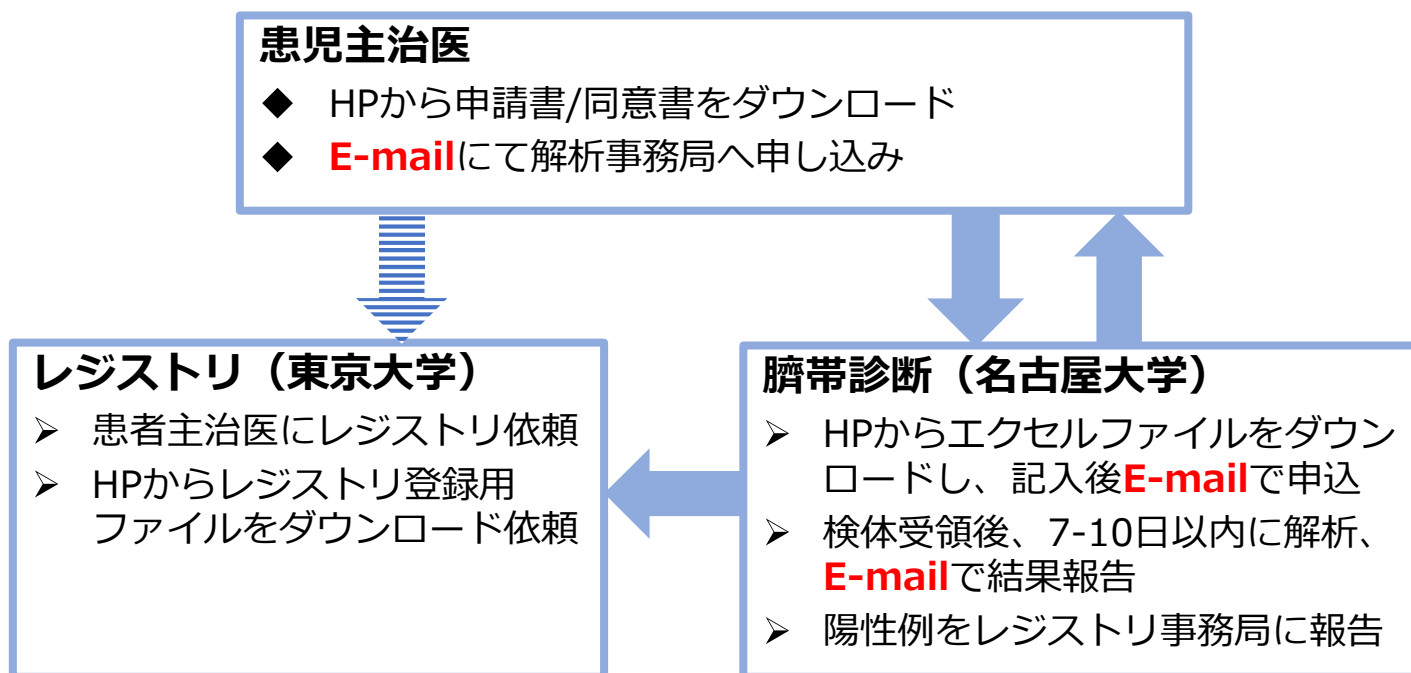
(A) 神経学的および/または発達の異常がある

発達遅延	発達障害	小頭症
脳性麻痺	てんかん	聴力障害 (ABR異常)

(B) 頭部MRIで異常所見を認める

石灰化	脳室拡大	皮質形成異常
白質信号異常	その他	

中央診断の流れ



<http://square.umin.ac.jp/ped/clinical-research/disease.html>

日本医療研究開発機構

「母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究」班

研究分担者 伊藤 嘉規 岡 明